

第4回多文化関係学会理事会 議事録

日時：2017年3月11日（土）10：10～11：55

場所：順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス第2教育棟402教室

出席者（敬称略、以下同）：田中、石黒、笠原、守崎、山本、中川、渋谷

委任状：奥西、出口、山田、原、長谷川

監事オブザーバー出席：小松

報告事項

1. 事務局

(1)会員数の確認（2017年3月時点で382名）、(2)3年以上の会費未納者の退会手続き、(3)学会誌12号のJ-Stage上での公開、(4)2016年度石井奨励賞の事務完了について報告された。また、(5)本学会HPに「日本学術会議協力学術研究団体」と示すようWeb委員へ依頼をすることを確認し、(6)来期より事務局長および財務委員変更のため、引き継ぎを行う旨の説明があった。

2. 委員会

○地区研究会

<関東地区>今年度、2回の研究会を開催。第1回(5月21日)は特定課題研究の成果発表。第2回(3月12日)は、講師としてベネット氏を迎えるにあたり広く会員以外にも広報し、60名が参加登録。

<関西・中部地区>今年度、平和学をテーマに2回の研究会を開催(第1回7月29日、第2回10月16日)。第2回は異文化コミュニケーション学会関西支部、JALT大阪/京都/神戸/奈良との共催で行い、約50名の参加があった。

○学術委員会：年次大会での石井奨励賞の授賞通知を完了した。石井賞の評価項目については来年度見直しをする予定。特定課題研究については、質を確保した成果の出し方について今後、検討(→以下、審議事項4へ)。

○学術誌編集委員会：第13号を発行。非会員の協力も得て査読し、掲載論文は4本(投稿18本中)。第14号の締め切りは2017年4月末日。投稿はデジタルファイルのみで対応することとし、そのための投稿規定の修正をする。

○NL委員会：6月発行のNLは主に新任理事の紹介、年次大会の予告となる予定。新しい担当理事への引き継ぎを兼ねて、現在の担当者も編集を補佐する。

3. 年次大会について

2017年度北海道大会における大会日程について説明があった。

今後の年次大会の会場として2018年度椋山女学園大学(名古屋)、2019年度東海大学(平

塚)、2020 年度高知大学 (高知) を予定。早めに HP 等で告知しておく。

4. その他

来年度に英宝社から出版される、2015 年度岡山大会時の企画をベースにした英語によるプレゼンテーションに関する本について、学会の年次大会企画であった旨を本の中で触れること、印税の一部が学会に支払われるように契約をしたこと、が報告された。

審議事項

1. 石井敏先生の追悼について

本学会に貢献された石井敏先生が 1 月末に他界されたことから、学会として追悼の意をこめて NL に追悼コラムを設定することが提案され、承認された。

2. 地区研究会費の使用用途についての確認 (会員への謝金・交通費)

遠方の会員に地区研究会での講演を依頼した場合の謝金・交通費について、これまで明確な基準が共有されていなかったが、以下のような形で運用することが合意された。

(1) 会員に対して謝金は払わないが、交通費等は地区委員会の予算の範囲内で使用可

(2) 地区研究会は経費の使用用途について報告する

3. 次期理事会への引継ぎについて

今期で任期を満了する理事は次期理事と引き継ぎ会を持つ、メモを作成する等、各委員会にとって望ましい形でそれぞれ行う旨を確認した。

4. 継続審議事項について

以下を継続審議事項として次期理事会に申し送りすることとする。

- ・学会 Web システムの更新：会員登録フォームに含める情報について見直し、使いやすいのを構築する。同時にシステムそのものも新しいものへの移行が必要な状況のため、予算と設計の検討が必要。

- ・若手ネットワーク：本学会らしい若手のネットワーキングをどうすればよいか、今後とも検討が必要である。

- ・特定課題研究の成果の出し方：現在は学会誌へ投稿する形を取っているが、研究プロジェクトの性質等によってふさわしい成果発表の在り方を検討する必要がある。

- ・その他：年次大会の予稿集を PDF 化して HP や J-Stage での公開を検討。→ 今後、事前に筆者承諾を取る書類を用意し対応する。大会参加者の利益を担保するため、公開時期は大会開催後一定期間を置いてからが望ましい。

5. その他

今期最後の理事会のため、出席各理事が退任のあいさつ、留任の抱負を述べた。

以上